



眼科学講座

より良質な視機能の提供を目指して!



主任教授 石龍 鉄樹

眼科学の目的は、より良質な視機能の提供にあります。当講座では、網膜硝子体疾患を中心に、研究・臨床を進めています。日本の視覚障害者数は約30万人とされています。網脈絡膜関連の疾患はこの約半数を占めており、網脈絡膜疾患の治療は社会的にもとても重要です。また、地方大学病院という特性上、緑内障、斜視弱視小児眼科、角膜疾患、眼腫瘍などすべての眼疾患の治療、研究に力を入れており幅広い知識を得ることができます。

多数の手術症例

研修では、豊富な症例から診断、手術の技能を磨くことができます。当講座の網膜手術件数は平成25年670件、平成26年601件、平成27年585件におよび、全国の大学病院の中でも上位です。

若手医師への手術指導にも力を入れており、豊富な症例を、経験豊富な指導医の元で経験することができます。もちろん実際の手術に至る前にはトレーニングが必須ですが、医局の実験室では模擬眼に対してマイクロサージャリー手技のトレーニングがいつでもできます。本物の手術機材を用いて行うトレーニングはスキルアップに大変役立ちます。

学生実習(アドバンスドコース)でも模擬眼に対する手術実習(写真1)を行っていますので、ぜひ興味のある学生さんはご参加ください。



写真1 手術実習風景

Visual Scienceの追求

眼球は、脳血管の一部である網脈絡膜血管や脳と共通の起源を持つ網膜の神経構造を直視下に観察することができる大変ユニークな臓器です。我々は、最新の機器を駆使してこの臓器に生ずる疾患の解明と治療を目指しています。例えば今年度から導入されたOCT angiographyは、造影剤を用いることなく、OCT(網膜眼底写真)撮影をするだけで網膜・脈絡膜血管内血流を可視化することのできる新しい技術です。これまで見ることはできなかつ

た網膜血管のネットワークを層別に観察することが可能です(写真2 左下の画像は網膜の深層血管の像)。この機器により点眼、硝子体注射をはじめとした薬物や全身状態の変化が眼微小循環に与える影響を解析しています。また、同時にこの機器は、これまで使用されてきた副作用がある造影剤を用いることなく検査を行うことができるため、患者さんにも優しい検査としても活躍しています。この他にも、加齢黄斑変性の補体経路と感受性遺伝子、網脈絡膜疾患における視細胞密度変化、各種眼底画像のdeep learningを用いた解析、網脈絡膜血管の3次元再構築による病態解析など、最先端のVisual Sci-enceを追求しています。

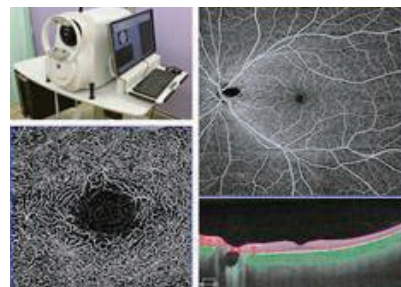


写真2 OCTアンギオグラフィー画像

さまざまなイベント

当講座では、様々なイベントを行っています。学生、研修医と手術を通して手術体験を共有するFOCUSという手術体験会を年に2回行っていきます。参加者は1年生から研修医まで多岐にわたりますが、毎回、大変好評です。医局BBQでは、外来、病棟、手術部や関連施設が家族も含めて集まり親睦を深めています(写真3)。眼科救急初期対応勉強会など、研修医になってから役立つ会も開催しております。今年はボジョレー・ヌーヴォー解禁日にあたり、樽で準備したワインを学生、研修医とともに楽しみました。勉強会、懇親会どちらも、いつでも大歓迎ですので掲示板を見て興味を持った際にはぜひご連絡ください!



写真3 みんなでBBQ